

SHEAとCDCのガイドラインの 相違点



大阪厚生年金病院
柴谷涼子

SHEAとCDCのガイドラインの 相違点

CDC	SHEA
1996年 病院における隔離予防策のためのガイドライン	2003年 MRSAとVREの院内伝播防止のためのガイドライン
2004年 隔離予防策のガイドライン 保健医療施設における感染因子の伝播防止 草案	

SHEAとCDCのガイドラインの相違点

CDC	SHEA
「病院における隔離予防策のためのガイドライン」	「MRSAとVREの院内伝播防止のためのガイドライン」
<p>重要な微生物を保菌する患者に対し、臨床的または疫学的に特別に問題があると判断した場合接触感染予防策を推奨</p> <p>確定診断がなされるまでは、標準予防策に加え、接触感染予防策の追加を推奨。</p> <p>多剤耐性菌については、耐性菌に感染や定着の病歴、耐性菌が流行している施設に最近入院、入所した患者の皮膚、創部、尿路感染症を経験的予防策を要する病態として提示</p>	<p>保菌者を早期に発見するための積極的な監視培養と接触予防策双方を実施することを推奨</p>

SHEAとCDCのガイドラインの相違点

CDC	SHEA
<p>「隔離予防策のガイドライン：保健医療施設における感染因子の伝播防止 草案」</p> <p>多剤耐性菌（MDRO）の感染防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抗菌薬適正使用 ・サーベイランス <p>　　積極的監視培養の推奨はされていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防策 <p>　　すべての患者がMDRO保菌、あるいは感染していると仮定し標準予防策を実施</p> <p>　　急性期ケア施設では、標的としたMDRO感染や保菌が確認されている患者に接触予防策を推奨</p>	<p>「MRSAとVREの院内伝播防止のためのガイドライン」</p> <p>保菌者を早期に発見するための積極的な監視培養と接触予防策双方を実施することを推奨</p>